

ハギクソウ *Euphorbia octoradiata* H.Lev. et Vaniot

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 4、総点 17。全国的にも、また愛知県でも分布域の限られた希少な植物で、愛知県は国内で本種が確実に観察できる唯一の場所と思われる。

【形態】

多年生草本。茎は少数が叢生し、直立して時に分枝し、高さ 35~45cm になる。葉は多数密に互生し、倒披針形~狭いへら形、長さ 4~7cm、幅 5mm 前後、辺縁は全縁である。茎の先端には 5 枚の葉が輪生し、葉腋から散形枝を出し、各枝に杯状花序を頂生して、分枝を繰り返す。花期は 4~5 月、杯状花序の腺体は半月形、苞葉は黄色で菱状卵形~腎形である。果実の表面にはこぶ状の小突起が密生する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 18 田原西部 (芹沢 87588, 2012-5-14)。限られた範囲に生育しているだけである。13 豊川 (御津, 井波和大 s.n., 1935-5-11, TNS) で採集された標本もある。

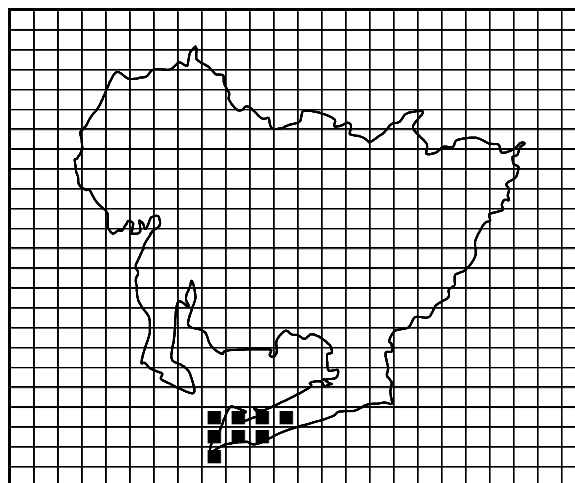
【国内の分布】

本州 (東海地方) および九州の海岸部に生育するが、九州での最近の状況ははっきりしない。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の砂地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

観光開発や砂防工事、道路建設等による生育地の直接的な破壊、あるいは砂防のため造林されたクロマツの生長に伴う砂丘の消失によって、本種が生育できる環境は極めて少なくなっている。比較的近年でも、防波ブロックを製造するため、不用意に自生地を破壊した例があった。西ノ浜では、風力発電所建設とそれに関連する工事によって生育地が破壊された。現在残された生育地は、特に注意深く保全していく必要がある。

【保全上の留意点】

土木工事等に際しては、特に注意を要する植物である。また、砂丘ややせ山のような自然・半自然環境は、そこを利用している、あるいは近傍に住む人に不利益をもたらすため、行政としては今までなるべく消失させるよう努力してきた。しかし、その努力は、一方でそのような環境に住んでいる生物の生活の場を奪い、生物多様性の減少を招いている。住民の利益と生物多様性の保全をどう調和させるかは、今後の重要な課題である。その一方で、園芸目的で採取されるおそれもあるため、分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、花後茎の先端に葉が密につき、キクの花に似た状態になるからである。彩色画は、2009 年版図版 1 に掲載されている。県条例に基づく指定希少野生動物種になっている。

【関連文献】

保草本 II p.79, 平草本 II p.227, 平新版 3 p.156, 環境省 p.81, SOS 旧版 p.62+図版 30, SOS 新版 p.151,152.